

# 第1章 千歳市農業振興計画策定にあたって

## 策定の背景・目的

農業・農村は、安全・安心で良質な食料の安定供給はもちろんのこと、国土・環境の保全や美しい景観の形成など多面的機能を有しています。

近年の農業を取り巻く環境は、農商工連携を進める食品産業や、グリーン・ツーリズム<sup>\*</sup>に象徴される観光産業など、他の産業との結び付きが見られており、また、食の安全・安心や食料自給率<sup>\*</sup>の低下に対する消費者意識の高まりなど、その重要性は益々高まっています。

その一方、生産コストの増大や農産物価格の低迷に起因する経営の逼迫、農業者の減少や高齢化、異常気象による作物への影響など、農業は多くの問題を抱えています。

さらには、従前からの WTO<sup>\*</sup>、EPA<sup>\*</sup>、FTA<sup>\*</sup>など、諸外国との貿易交渉のほか、新たに TPP<sup>\*</sup>の動向が懸念され、我が国の農業・農村をめぐる内外の情勢は極めて厳しい局面を迎えております。

特に、我が国有数の食料供給地域として、国民全体の食を持続的に支える重要な役割を担っている北海道農業にとって、情勢の変化による影響は計り知れません。

国は平成 22 年 3 月に新たな食料・農業・農村基本計画を策定し、意欲ある農業者の創意工夫を引き出し、農業・農村の秘める力が最大限に発揮されるよう、戸別所得補償制度<sup>\*</sup>の本格実施、農業・農村の 6 次産業化<sup>\*</sup>の推進、総合食料自給率<sup>\*</sup>（供給熱量ベース）の 50% 達成などを目指すものとししました。

北海道は、農業・農村を北海道経済のけん引役として確立させるため、新たな農業・農村振興推進計画を策定し、生産者・消費者・事業者が強い信頼で結ばれた「食」のブランドづくり、「環境」と調和した農業・農村の持続的発展、多様な「担い手」の育成・確保と経営の体質強化、豊かな資源と創意工夫を活かした「地域」づくりを目指すこととしております。

千歳市農業振興計画(第3次)は、このような国内外の情勢や、食料・農業・農村基本計画及び北海道農業・農村振興推進計画を踏まえ、平成 12 年度に策定した「千歳市新農業振興計画」に基づき進めてきた施策を踏襲しながら、新たな時代の動きに対応できるよう、「農業経営の強化」、「農業の担い手の育成・確保」、「環境と調和した農業の推進」、「都市と農村の交流促進」、「生産性の高い土地基盤整備<sup>\*</sup>の推進」、「農業用施設の適正管理による災害防止」、「森林の整備と保全」の 7 つの基本方向のもと、今後 10 年間の千歳市の農業・農村の振興に向けた取組を進めていくための計画としております。

注)<sup>\*</sup> 63 ページ以降に用語解説があります。

## 位置付け

千歳市では、市における最上位計画である「千歳市第6期総合計画」に将来都市像「みんなで生き生き 活力創造都市 ちとせ」を定めるとともに、まちづくりの基本目標の一つとして「活力ある産業拠点のまち」を掲げています。

千歳市農業振興計画(第3次)は、その実現を図るための農業分野の個別計画に位置付けて、農業振興に取り組むための「施策の方向性と対応策」を示すものとしております。

## 計画期間

平成23年度から平成32年度までの10年間とし、諸外国との貿易交渉の進展や農業政策の転換など社会経済情勢の変化を踏まえ中間年に進捗状況の点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととします。

## 策定体制

千歳市農業振興計画(第3次)の策定にあっては、農業者意向アンケート調査、農業担い手意見交換会、農業関係機関ヒアリングなどを実施するとともに、農業者や有識者、関係団体、公募による市民で構成する「千歳市農業振興計画策定懇話会」からの意見を踏まえ、千歳市における農業の現状を把握しながら、今後の農業振興施策を策定しました。